

# ムンバイ日本人学校だより

## グルモハル

JAPANESE SCHOOL OF MUMBAI

UnitNo.201,202,HiranandaniKnowledgePark,  
HiranandaniGardens,PowaiKailashComplex  
LinkRoad,Powai,Mumbai,400076

TEL 022-6694-0630 FAX 022-6221-5107

30 June /2018 No. 4

## 互助共助の精神

校長 橋本 匠司

6月18日、朝7時58分、大阪北部を震度6弱の大きな地震が襲いました。日本の報道では被災地の情報が継続して伝えられています。この地震で、また尊い命が奪われてしまったことに大きな悲しみを感じており、心からご冥福をお祈り申し上げます。現在でも1000人を超える多くの方々が、避難生活を余儀なくされているということです。一刻も早く、落ち着いた毎日が送れますよう願っております。

インドでは地震はほとんど起こらないため、自分自身その恐ろしさを忘れてしまっていた感じがあります。たとえ日本にいても、もしかしたら年月とともにその記憶は薄れていくのかもしれませんが・・・。東北地方を中心に、広い地域で甚大な被害をもたらした東日本大震災から7年が経ちました。2011年3月11日、ちょうどその時は子ども達の下校時刻と重なり、2年生の担任だった私も下校指導をしている時でした。横浜市の中でも私のいた中区は震度5強の揺れがあり、校庭の中央に子ども達を集め、安全確認をしてから、心のケアをすることに必死であった覚えがあります。幸いなことに児童にけが人はなく、保護者に無事に引き渡すことができたときの安堵感は今も覚えています。(震災当日は、おうちの方が自宅に戻ることができず、一緒に学校に泊まった子どももいましたが、次の日には全員無事に引き渡すことができました。)震災直後はその復旧や対策として様々な活動が全国で行われましたが、あれから7年の月日が流れ、被災地以外で暮らす人々にとっては、その事実は少し意識から遠ざかっていたかもしれません。そんな時に起きた今回の地震、1995年に阪神・淡路大震災に襲われた関西地域に住む方々も、きっと今は現実の厳しさに途方にくれているのではないのでしょうか。

いくら科学が発達し、安全面での向上があったとしても、自然の力の前では何もできないことが多々あります。私たち人間の未来は、この自然の力をしっかりと認識し、共存していくことが必要であることは明らかです。それとともに人間がいかに力を合わせ、助け合っていくことができるのか、互助共助の精神を世界中の人々がもつことが重要でしょう。今を生きる子ども達の未来が持続発展するために、今回被害に遭われた方々に対して何ができるのか、これからどうやって我々は生きていくべきなのか、このことを改めて考えていきたいと思っています。

### 【インド体験クラブ】

13日、インドを知るための体験クラブで、全校児童生徒がブロックプリントに挑戦しました。本校講師サビーナ先生の指導の下、様々な型を用いて、自分なりの作品を創り上げました。これからもいろいろな場面でインドを身近に感じ、その良さを体感できるような学習を行っていきます。



### 【キャリア教育】



ムンバイに暮らす有志の方々が結成した音楽グループ、ネイチャーズバスケットをお招きして、音楽教室～キャリア教育の学習を行いました。最初の1時間目は全校で演奏を鑑賞、2時間目は3年生以上の子ども達が、メンバーの方々のムンバイにおける仕事や生活に対する思いや願いを、パネルディスカッション形式でお聞きしました。お話を聞くだけでなく、話合いに能動的に参加していく学びをこれからも大切にしていきます。



### 【卓球大会】

23日は本校ホールにて、卓球大会が開かれました。それぞれがこれまでの練習の成果を発揮しようと、勝利に向けて全力で取り組みました。個人戦、団体戦ともに白熱したゲームが続き、1年生から中学生まで、全員が協力して一つの大会を創り上げることができました。応援いただいた保護者の皆様、ありがとうございました。子ども達の心にもまた一つ素敵な思い出が残ったことと思います。



※当日着用した赤いバンダナは、また別の行事等で使用することがありますので、各ご家庭での保管よろしく願いいたします。